

慈眼寺

整備だより

第一号

平成十三年七月

慈眼寺整備委員会

委員長 大野 悟

ごあいさつ

整備委員長 大野 悟

梅雨に入ったとはいえ、雨の少ない天気が続いており水不足も心配されます。皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。



さて、昨年十月に発足いたしました慈眼寺整備委員会も、今年に入り皆様方に無理なお願いをいたしまして、予定を大幅に上回るご

寄付をいただきました。これもひとえに慈眼寺整備事業に対するご理解とご支援の賜物と拝察し、委員一同になり代わりまして心より厚く御礼申し上げます。

顧みますれば、委員長をお受けしたときは、バブル崩壊後の厳しい経済情勢の中で資金調達を、土地売却代金で賄うべく努力をいたしてまいりましたが、ほとんど売れず寄付金もまったく読めない状況で、夜もろくに眠れないような日々が続いております。

そんな中で、五月末の寄付金集計と、六月中旬に土地の一部が売却でき何とか目鼻が付いてきましたので

六月二十七日をもって(有)田辺建設と一億七千万円で契約をいたしました。

お盆過ぎの九月十日には本堂の解体工事に掛り、平成十五年の三月までには本堂、位牌堂、客殿を順次完成して行く予定であります。その後、外構整備を行い立派なお寺が完成するよう、委員全員が一丸となつて努力をしてまいりますので、温かく見守ってください。これからは何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。御礼かたがたご挨拶とさせていただきます。なお、詳細につきましては担当の委員よりご案内させていただきます。

計画から着工に至るまで

副委員長 伊藤 正

この度「慈眼寺整備だより」第一号の発刊に際し、

紙面をお借りしまして、はなはだ僭越に存じますが、檀方総代および整備委員として計画の段階から着工に至るまでの所感を述べ、お礼の言葉に代えさせていただきます。

下市場区画整理事業の完了に伴い街区の整備充実は他に類例のないほど万全にして近代的になりました。こうした環境にあつてお寺の境内のみが古く取り残された感が強く、なんとか従来からの形を変えることなく格好良くしかも美しく整備できないものかと思案いたしました。この間ご住職はじめ総代各位審議を重ね研鑽を繰り返し、また繰り返しましたが何かひとつ突き当たるものがあつて進展いたしませんでした。昨年十月、檀家総会において整備委員会を作つてい

ただき整備事業の内容の具
体化と寄付の勧進を早速に
進めてまいりました。寄付
につきましては時節柄まこ
とに無理なお願いにもかか
わらず快くご賛同頂きまし
た事は、この事業の最初で
しかももつとも困難な目標
を檀家の皆様方のご篤志を
もって超える事が出来まし
た。本当に日夜合掌の思い
で感謝しております。

今後三年余りの事業にな
りますが、ご期待に添える
よう、まずは健康に留意い
たし、老いの生命をかけて
整備事業に努力いたす所存
でございます。

なお完成の暁には、檀家
の皆様の先祖供養あるいは
宗旨伝導等の場として、今
までのお寺以上に活用頂
き、末永く後世に残るよう
願うものでございます。

なおこれからにつきまし

ても、何卒ご支援、ご指導
を賜りますようお願い申し
上げます。

工事契約の締結

去る六月二十七日の大安
吉日、整備委員会大野悟委
員長は、委員会諸役および
住職立会いのもと発注先の
(有)田辺建設、田辺勉社長
と慈眼寺において工事契約
を締結いたしました。



なお、契約会社、工事総
額および工事内容に書いて

は、四月二十日の整備委員
会において最終的に認めら
れた方針に基づいておりま
す。契約の概要は次のとお
りです。

発注先	(有)田辺建設
設計管理	豊川市豊川町 山本建築事務所
工事費	一億七千万円
構造および面積	
木造瓦葺	
本堂	四十八坪
客殿	五十五坪
位牌堂	二十坪
工期	
*本堂、位牌堂	
自 平成十三年九月	
至 平成十四年七月	
*客殿、廊下	
自 平成十四年九月	
至 平成十五年三月	
*本堂の上棟式は本年十一月二十八日の予定です。	

また本堂の工事期間中は、
旧庫裏を仮本堂として使用
し、法要、参拝等に支障の
ない様にいたします。

寄付の勧進状況

昨今の厳しい経済状況に
もかわらず大変たくさん
のご寄付を頂きました。皆
様のご篤志に心から感謝申
し上げ報告いたします。

地区別	申込戸数	金額
寺裏	54戸	3725万円
中	29戸	2575万円
宮西	29戸	2720万円
北	24戸	550万円
南部	34戸	1260万円
四谷	43戸	2275万円
他所等	103戸	3436万円
合計	316戸	16541万円

集計は六月三十日付です。

寄付金の振込先は、春日井市農協始め、三金融機関を指定させていただき皆様それぞれにご予定されました時期までに振込みをいただいております。七月の初頭において約九千八百二十万円の振込みをいただいております。

寺院建築の視察、調査

整備委員会では、昨秋の発足後はもとより、それ以前の準備期間中も含めて各地の建設中や竣工後の神社仏閣あるいは神社建築業者の工場などを訪問し、研修調査を重ねてきました。



妙日寺



左上の写真は小坂井の篠束神社、右の写真は袋井の妙日寺のものです。このような研修調査を通して、業者間の比較もでき、また材木や神社建築の知識を習得することができ望外の収穫でありました。最終的には、使用木材の良否、加工技術、建築費用などを比較して建築業者の絞り込みを行いました。下段の写真は、契約先の田辺建設の木材加工場の

ものです。同社はこのような機械加工を多く取り入れてコストダウンを計っているということです。



整備委員会の議事経過

整備委員会では昨年十月の檀家総会で選任されて以来、何度も会合審議を重ねてきました。主な議事経過を報告いたします。

＊十月二十八日

檀家総会で委員会選任基本方針の了承

＊十二月十六日

寄付金一口を五万円
勧進帳の文面確定

＊十三年一月三十一日

寄付勧進活動の開始

＊二月、三月

寄付勧進活動

土地の売却活動

＊三月十三日

田辺建設会社調査

小屋組材の調査

＊四月十三日

契約締結の方針確認
契約先を田辺建設とすることに決定

＊四月二十日

委員会と田辺建設協議

＊六月二十七日

契約締結

整備委員会の大まかな活動状況は右のとおりです。なお、この他に各種小委員会、

三役会、庶務会議などが行
われました。

和尚敬白

住職 春日井浩道

梅雨のさなか、とても鬱
陶しい日が続いております。
皆様方にはご清栄のことと
お喜び申し上げます。

二年程前には、まさかこ
のような事態に進展すると
は夢にも思っておりません
でした。ただ本堂の屋根に
ついては老朽化が進んだこ
とから葺き替えを検討した
ところ、本体の劣化が著し
いことが判明しました。檀
方総代の方々と相談したと
ころ、諸般の情勢から今が
立替時かもしれないという
ことになりました。みなさ
んといろいろ勉強いたしま
した。そして何とかなりそ
うだという感触を得た段階

で檀家総会を開催していた
だいたわけでございます。
この見通しが甘かったこと
は、後になって土地の売却
がほとんどはかどらず結局
は、予想を上回る皆様のご
寄付により救われたという
次第でまったく恐縮いたし
ております。本堂に有難う
ございました。

また、多忙の身でありな
がら委員長を引き受けられ
ました大野悟氏始め各委員
の方々にも率先して多額の
寄付をいただき、さらには
寒暑をいとわずご尽力を賜
っておりまして、この場
をお借りして深く御礼申し
上げます。
皆様のご多幸を祈念しつ
つご挨拶とさせていただきます。

編集後記

この度は大勢の皆さんか

らたくさんの方の寄付の申し出
をいただきました。その都
度ご住職に連絡し一枚ずつ
本堂内に貼り出しまして、
皆様に状況をお知らせする
上で役に立ったと思います。
皆さんにご無理を言いつて
寄付をお願いしてきました
ので、状況をできる限りキ
チンとお知らせするのが

我々の義務ではないか？そ
んな思いがきっかけで「慈
眼寺整備だより」の発行を
することになりました。な
お寄付の申し出は地元につ
いては一応三月末をもって、
他所地区については五月末
を期限にお願いしてしまし
たのでその結果は勿論、今
後の整備、建設計画などい
ろいろお知らせすべきこと
はありますが、とりあえず
まとめて第一号を作ってみ
ました。

皆さんの強力なご賛同と

ご協力で一大事業はいよいよ
本格的に始まり、まさに
「山は動いた」という思い
であります。今後も整備事
業の進展にあわせて「便り」
を発行していき、整備事業
と皆さんとの掛け橋にして
いきたいと願っております。
ご期待ください。

(編集子)

「慈眼寺整備だより」第1号

発行日 平成13年7月10日

発行人 春日井市下市場町5-7-2

慈眼寺整備委員会

委員長 大野悟

編集 庶務 伊藤忍

連絡先 電話 0568-81-6801